

私たちが提案し続けている発達予防保育と最適発達予測保育

増え続ける発達障がい児や

グレーゾーン児に必要な

一日講座

これからの保育

「発達予防と最適発達予測」

講師：NPO 法人国際臨床保育研究所 所長 辻井 正（社会学博士）

発達予防とは…

5歳の多動で乱暴なK君には毎日のようにトラブルがあり担任は頭を痛めています。相談を受けた私は、彼の1～2歳の保育記録を読んでもくださいとアドバイスしました。翌日、興奮した声で「保育記録にハイハイをしなかった、食のこだわりが強かった、2歳になってもじっと目を見なかった」と書かれていたそうです。発達のリスク（危険因子）に早く気がついてあげることが可能です。そのために必要な「遊びからの検査法」を講義します。

最適発達予測とは…

発達障がい児の個別の支援も必要ですが、最近では発達障がいの疑い（様子を見ましよう）があると専門家は保育園を勧めます。それ故に、子どもたちのもう一つの支援は、保育集団に入り易いようにハードルを低くしてあげる工夫と、皆と同じ能力（標準化された発達指標）ではなくて、まず、子どもが到達し易い地点に導いてあげることです。子どもの発達（脳の働き方）に適した遊びと教具の講義をします。



研究所ブログも、毎日更新中

日時：12/14(日) 10:00～16:30(お昼休憩含む)

場所：NPO法人国際臨床保育研究所

お一人：8,000円（当日、会場にてお支払いください）

講師：辻井 正（社会学博士）

講師の臨床経験は裏面をご覧ください。

当日のスケジュール

第1講座 (10:00~12:00)

0歳から2歳までの発達のリスク(危険因子)に気づくための「遊びによる検査法」と具体的な支援方法を講義します。



お昼休憩

第2講座 (13:00~15:00)

3歳から5歳までの発達のリスク(危険因子)に気づくための「遊びによる検査法」と具体的な支援方法を講義します。



コーヒーブレイク

第3講座 (15:15~16:30)

保育室における個別の発達支援の関わり方や空間の取り方、さらにヨーロッパの保育室で使われている視覚的刺激によるビジュアル・エデュケーションを紹介します。

辻井 正

障がい児教育や施設での臨床(現場)経験

- ・ドイツ障害者の町「ベテル」にて、てんかん性発作のある少年の家(カペルナウム)指導員として勤務。勤務の傍ら、看護コース(夜間部)の訓練を受ける。
- ・帰国後、大阪大手前肢体不自由児施設にて病棟勤務指導員として勤務する。
- ・その後、ドイツケルン大学V o j t a (ボイタ)法訓練コースを修了。
- ・帰国後、知的障害児施設「生野子どもの家」園長代理として勤務する。
- ・これまでの経験を生かして、当時多くの保護者が求めていた乳幼児障がい児のための「おもちゃライブラリー」を大阪に開設する。
- ・現在 アサヒ子ども相談(朝日新聞社厚生文化事業団)カウンセラーとして、あべのハルカス8階にて子ども指導を担当する。

◆障害児療育や障害児保育に関する著書◆

- ・新おもちゃによる療育レッスン
- ・障害に早く気がついて支援してあげるための遊びからの検査法
- ・特別発達支援セラピー教具の与え方(共著)
- ・Get Ready for School(幼児の感覚運動)訳
- ・小学校に行くまでの感覚運動と基礎学習スキル3巻



必要事項をご記入の上、06-6773-3008 まで FAX をお願いいたします。

受講者名: _____

勤務先: _____ 職務名 _____

住所: _____

電話番号: _____ FAX _____

後日、お申し込みご確認書と当研究所までのアクセスマップをお送りいたします。



NPO法人 国際臨床保育研究所
Kid's International Clinical Childcare Center